

習志野市高齢者相談センター 評価結果 全体講評の概要

谷津高齢者相談センター

認知症になっても安心して暮らせるまちを目指した取り組みに、多くの住民が主体的に参加していることや、既存のネットワークに加え新たなネットワークや協力者が増えている事は、認知症の啓発活動に力を入れた結果だと考えます。

また、センター職員間の情報共有が、利用者や地域の支援に活かされ、人材の発掘やネットワークの開発につながるなど、組織的な対応が取れています。

秋津高齢者相談センター

地域ケア会議では、医療・福祉・地域関係者間での情報共有や地域課題等の検討を丁寧に行い、地域関係者と関係機関が課題解決に向けて行動できています。

また、地域サロン再開支援や新規立ち上げ支援等、積極的に地域に出向いたり、自作の「健康応援カード」を用いて高齢者自身が健康意識を高められるよう取り組むなど、三職種、認知症地域支援推進員、第2層生活支援コーディネーターがそれぞれの職能を活かし、センター内外の関係者との良好な連携の上で活動されています。

津田沼・鷺沼高齢者相談センター

ケアマネ交流会の手法や活用方法については、地域のケアマネジャーに対する支援として組織的な取り組みがされています。

また、全職員が地域活動に参加し、顔の見える関係になった事で、地域によって差異はありますが、民生委員や高齢者相談員からの相談、シニアサポーター等とのマッチングも増えています。

屋敷高齢者相談センター

職員間での情報共有を綿密に行い、支援の方法や方向性の統一が図られています。

また各専門職の視点を活かし、相談業務等において丁寧に対応されています。

市民との関係性やネットワークを強化・拡大しながら、地域の個別ケースの支援を共に行い地域課題について同じ視点で意識し、取り組まれています。

東習志野高齢者相談センター

認知症に関してサポーター養成講座やサポーター交流会、家族会の開催をする他、子ども会等関係機関と連携した事業を積極的に行っています。また、第2層協議体においても「移動」に関する新たな課題に取り組んでおり、課題解決に向け、確実な進捗状況が伺えます。

ラジオ体操、笑学校など東習志野圏域ならではの取り組みに加えて、商店会との連携（マルシェ参加）や地域住民との関わりなど新たな取り組みがされています。困難事例、複雑な課題のあるケースが増えている圏域において、三職種、認知症地域支援推進員、第2層生活支援コーディネーターがチームとして対応する体制がとれると共に、必要に応じて他機関との連携ができています。